

平成26年基金シート

(文部科学省)

基金名	子ども架け橋基金	担当部局	大臣官房国際課		作成責任者			
法人名	国際移住機関 (IOM)	担当課室	国際協力企画室		室長 永井 雅規			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-	関係する計画、 通知等	「定住外国人の子どもの就学 支援事業についての取り決 め事項」(平成21年7月9日) (文部科学省と国際移住機 関(IOM)との間の申し合わせ)		関係する行政事 業レビューシー ト			
事業の目的	本事業は、景気後退により、不就学・自宅待機となっている外国人の子供に対して、日本語等の指導や学習習慣の確保を図るための教室を外国人集住都市等に設置し、公立学校等への円滑な転入を目指すものである。							
事業概要 (5行程度。別 添可)	(1) <input checked="" type="checkbox"/> 取り崩し型 <input type="checkbox"/> 回転型 <input type="checkbox"/> 保有型 <input type="checkbox"/> 運用型 <input type="checkbox"/> その他 (2) <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 債務保証 <input type="checkbox"/> 利子助成、補給 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 補てん <input type="checkbox"/> 出資 <input type="checkbox"/> 調査等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 本事業では、不就学・自宅待機となっている外国人の子供に対して、受け皿となる教室の設置、日本語指導、教科指導、バイリンガル指導員等(外国人教員等も含む)による母語指導を通じた教科指導等を国際移住機関を通じてNPO等団体に委託することにより、外国人の子供の公立学校等への円滑な転入や地域社会との交流の促進を図る。							
基金への国庫から の支出の経緯 ①	基金設置年度	平成21年度	当初/補正 (会計区分)	補正 (一般会計)	国費額 (単位:百万円)	3,726		
	目的	景気後退により、不就学・自宅待機となっている外国人の子供に対して、日本語等の指導や学習習慣の確保を図るための教室を外国人集住都市等に設置し、公立学校、ブラジル人学校等への円滑な転入を目指す。						
基金への国庫から の支出の経緯 ②	追加年度		当初/補正 (会計区分)		国費額 (単位:百万円)			
	目的							
終了予定時期	【基金の終了予定時期】平成27年4月 【新規申請の受付終了時期】平成26年2月							
過去に実施した 見直しの概要	当初の事業終了時期は平成23年度を予定していたが、東日本大震災の影響もあり、経済情勢は依然として厳しく、事業開始前の水準に回復していないという状況を踏まえ、引き続き本事業による就学支援が必要であるものと判断し、平成26年度まで本事業を継続することとした。継続にあたっては、各地域での事業実施団体を約40団体から約20団体に集約・拠点化するとともに、公的施設の活用、これまでの教室運営のノウハウの蓄積に伴う人件費を削減する等により、より効率的・効果的な事業とすることとした。							
収入・事業費等 (単位:百万円)	収入	国費 (補助金等)	23年度	24年度	25年度	26年度見込み		
		出資等	0	0	0	0		
		運用収入 (うち国費見合額)	-	-	-	-		
		〇〇収入	3 (3)	4 (4)	2 (2)	1 (1)		
		その他	-	-	-	-		
		前年度末 基金残高	-	-	-	-		
		(マイナス)返納額	2,715	2,136	1,745	1,355		
		合計(a)	-	-	-	-		
	事業費等	委託金	2,718	2,140	1,747	1,356		
		管理費	469	348	346	368		
合計(b)		113	47	46	48			
基金残高(a-b)		582	395	392	416			
(うち国費相当額)		2,136	1,745	1,355	940			
		2,136	1,745	1,355	940			
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	23年度	24年度	25年度	26年度 活動見込み	
	当事業により、公立学校、ブラジル人学校等へ就学を果たしたブラジル人等の子供の数		成果実績	人	927	635	802	-
	※ 不就学・自宅待機となっている外国人の子供の数や状況自体が、その時点での地域における経済・社会情勢等の環境によっても大きく左右されるものであり、当事業への需要の予測は非常に困難であり、平成26年度の活動見込みや目標値を設定することは非常に困難である。		目標値	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-
成果目標の 達成度の評価	不就学・自宅待機となっている外国人の子供の数や状況自体が、その時点での地域における経済・社会情勢等の環境によっても大きく左右されるものであり、当事業への需要の予測は非常に困難であり、達成度を定量的に評価することは難しいが、本事業により、平成25年度までに約3,400人が公立学校やブラジル人学校等への就学を果たしており、一定の成果をあげてきていると評価できる。							

活動指標(目標年度)	活動実績(当初見込み) (単位:百万円)	単位	23年度	24年度	25年度	26年度 活動見込み	
			23年度	24年度	25年度	26年度 活動見込み	
活動指標及び活動実績 (アウトプット) 当該年度における事業費等に対する事業実施団体数(件:金額)	活動実績(当初見込み) (単位:百万円)	貸付	件:金額	- : - (- : -)			
		債務保証	件:金額	- : - (- : -)			
		利子助成等	件:金額	- : - (- : -)			
		補助・補てん	件:金額	- : - (- : -)			
		出資	件:金額	- : - (- : -)			
		調査等	件:金額	- : - (- : -)			
		委託	件:金額	39:582 (- : -)	23:395 (- : -)	21:392 (- : -)	22:416 (- : -)
単位(1件)当たりの事業費等	18,664,612(円/件)	算出根拠	平成25年度事業費等(392百万円) / 平成25年度事業実施団体数(21件)				
保有割合 (基金事業に要する費用に対する保有基金額等の割合)	3.26	算出根拠	平成25年度末の基金額(1,355百万円) ÷ 事業が完了するまで(平成26年度の1年間)に必要な事業費等(416百万円)				
基金の見直しの状況	①使用見込みの低い基金等の該当の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 / <input type="radio"/> 無)						
	【有の場合、該当する理由】	本事業は、自宅待機・不就学等になっている外国人の子供を対象に、日本語指導、教科指導等により外国人の子供の公立学校等への円滑な転入を目指すものであるが、基金への需要の予測は非常に困難であり、今後の経済動向等の状況によってはそのニーズが急激に拡大する可能性もあることを考慮し、慎重で効率的な事業運営を行ってきたため。					
	【使用見込みの低い基金等に該当する場合の検討結果】	平成26年度をもって、当事業を終了し、残額は国庫返納する。					
	【使用見込みの低い基金等を残置する場合の理由】	-					
基金の見直しの状況	②点検・検査等の実施状況						
	毎年度、前年度における基金の執行状況について報告を受け、報告内容について確認を行っている。						
基金の見直しの状況	③その他						
所見/対応状況	<p>本事業は、自宅待機・不就学等になっている外国人の子供を対象に、日本語指導、教科指導等により外国人の子供の公立学校等への円滑な転入を目指すものである。基金への需要の予測は非常に困難であり、今後の経済動向等の状況によっては、そのニーズが急激に拡大する可能性もあり得ることを考慮し、慎重に事業運営を行ってきたことから、結果的に基金の保有割合が高くなっている。</p> <p>外国人の子供について、国籍の多様化が進む状況にある中、自宅待機や不就学等に陥る子供の問題は、依然として解決しておらず、本事業へのニーズは依然として非常に高い。そのため、平成26年度においても、引き続き効率的・効果的な事業運営に留意しつつ、当基金において本事業を着実に実施することが必要。</p>						
補記							

※平成25年度実績を記入。

文部科学省

【拠出】

平成25年度:0
(平成21年度:3,726)

国際移住機関
子ども架け橋基金

【前年度基金残高】1,745百万円

【収入】	【支出】
運用収入:2	委託金:346
前年度繰越し:1,745	管理費:46
合計:1,747	合計:392

【今年度基金残高】1,355百万円

【委託】

346百万円

【管理費】

46百万円

A.NPO法人
青少年自立援助センター(福生)
他 20団体

B.管理費

主として自宅待機・不就学等になっている義務教育段階等の外国人の子供を対象に、その受け皿となる場所の設置、日本語指導、教科指導、バイリンガル指導員等(外国人教員等も含む)によるポルトガル語等の母語指導を通じた教科指導等を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A.NPO法人 青少年自立援助センター(福生)			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	指導者等給与費、給与費付帯経費(社会保険料)等	14			
借損料	家賃、会場借料、事務機器借料、バス借り上げ料等	2			
その他	消耗品費、諸謝金費、旅費等	3			
計		20	計		0
B.管理費			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
賃金	職員3名に対する賃金	21			
諸謝金	事務局業務補助、事務局業務補助	1			
雑役務費	オフィス清掃、人事サービス料等	1			
その他	借損料、消耗品費、光熱水費、一般管理費等	23			
計		46	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の金
 額が支出されて
 いる者について
 記載する。費目と
 使途の双方で実
 情が分かるよう
 に記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要及び採択理由	支出額 (百万円)
1	NPO法人 青少年自立援助センター(福生)	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
2	NPO法人 多言語教育研究所	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
3	NPO法人 多文化共生センター東京	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
4	NPO法人 日本ペルー共生協会	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
5	社会福祉法人 青丘社	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
6	NPO法人 日本インターネットスクール協会(焼津)	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
7	NPO法人 日本インターネットスクール協会(菊川)	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
8	NPO法人 ARACE	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	19
9	NPO法人 国際社会貢献センター	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	19
10	NPO法人 外国籍住民自立就労協会	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	19